

2. 小児に対する医療機関以外の接種場所の確保について

上記のとおり、小児の間で感染が拡大し、地域によっては小児科に患者が集中している状況にあります。このような状況の中で、多数の小児がワクチン接種を行うために小児科を受診することによって、更に小児科の負担が増大することが懸念されます。

については、各都道府県及び市町村において、受託医療機関や郡市医師会等と調整いただき、接種場所として保健センターや保健所などの活用を、再度ご検討いただくよう、お願いします。

保健センター等を活用する例として、次のような方法が想定されるので参考として下さい。

(例1) 市町村が中心となり、当該市町村に所在する受託医療機関を募って特定の学校・学年の児童等を集めて保健センター等で接種する方法

(例2) 郡市区医師会が中心となり、受託医療機関の管理者が当該医師会の会員となっている医療機関を募って、保健センター等に当該地域の児童を集めて接種する方法

(例3) 小学校の校医が勤務している受託医療機関が、保健センターに特定の学年ごとの児童を集めて接種する方法

なお、保健センター等を活用する際には、実施要綱・要領に基づき、予診により被接種者の健康状態の把握に努めるとともに、被接種者に十分説明し同意を得るなど、安全性の確保に留意して下さい。

3. 新型インフルエンザ感染者に対する周知について

基本的に新型インフルエンザに既に感染した者については、免疫が獲得されているため、ワクチンの接種を受ける必要はないと考えられます。

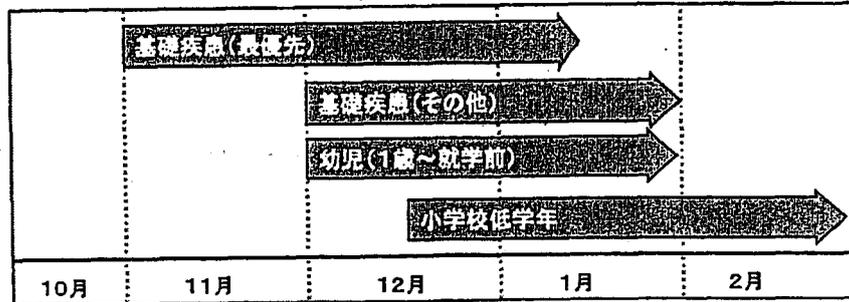
また、現在、厚生労働省が行っているサーベイランスによると、現在、国民が罹患しているインフルエンザの大部分は新型インフルエンザウイルスによるものです。このため、本年の夏以降、A型のインフルエンザと診断された者については、新型インフルエンザに既に感染した可能性が高いと考えられます。なお、PCR検査により新型インフルエンザに罹患したことが確定した方については、ワクチン接種は必要ないと考えられます。

A型のインフルエンザに罹患したと考えられる方が、ワクチンの接種を希望される場合は、上記のことをご理解いただいた上で、医師と相談し、接種の有無について判断していただきたい旨、周知をお願いします。

図1 スケジュール一部前倒しのイメージ

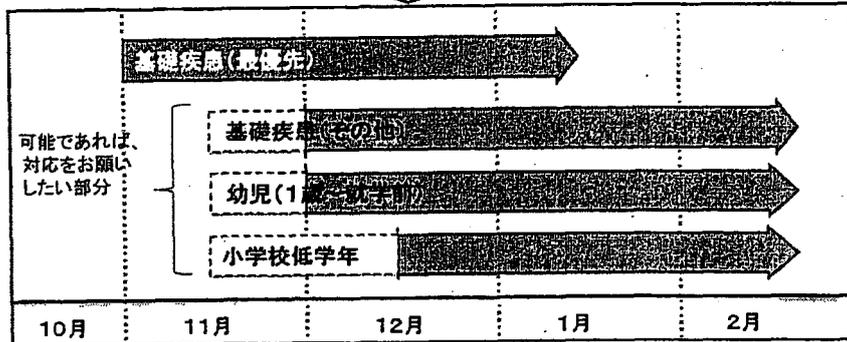
接種スケジュールの目安

現在の
スケジュール



以下のようなスケジュールの見直しについて検討を依頼

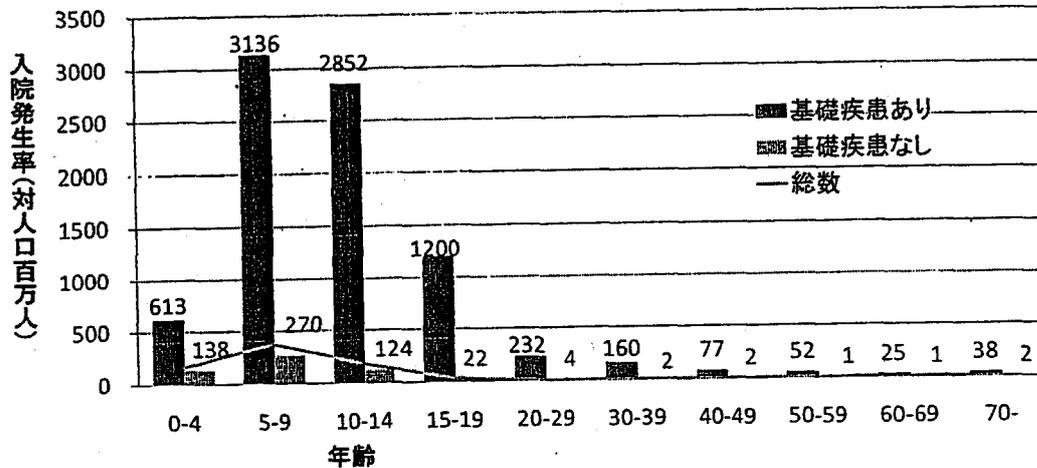
見直し後の
スケジュール
(イメージ)



新型インフルエンザ (A/H1N1) の流行状況

年齢階級別・基礎疾患の有無別の入院発生率(推計)

年齢階級別入院患者数(人)／年齢階級別対象人口(推計)(人)



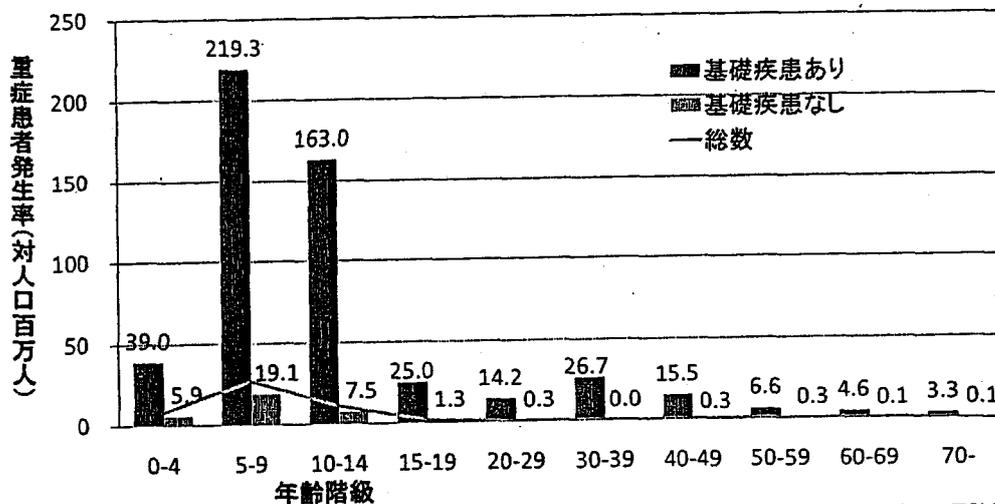
※年齢階級別入院患者数は、7月28日時点で入院中の患者または7月29日以降11月3日までに入院した患者の累計数
 資料:「推計人口(平成21年5月1日現在)年齢(5歳階級)男女別、総務省統計局
 「平成17年患者調査」、厚生労働省大臣官房統計情報部
 「入院サーベイランス」厚生労働省 新型インフルエンザ対策推進本部

厚生労働省新型インフルエンザ対策推進本部事務局作成

年齢階級別・基礎疾患の有無別の重症患者発生率(推計)

年齢階級別重症患者数／年齢階級別対象人口(推計)

重症患者の定義: 脳症または人工呼吸器使用



※年齢階級別重症患者数は、7月28日時点で重症の患者または7月29日以降11月3日までに重症と確認された患者の累計数
 資料:「推計人口(平成21年5月1日現在)年齢(5歳階級)男女別、総務省統計局

「平成17年患者調査」、厚生労働省大臣官房統計情報部

厚生労働省新型インフルエンザ対策推進本部事務局作成

「入院サーベイランス」厚生労働省 新型インフルエンザ対策推進本部

新型インフルエンザの集団的接種の主な実施状況(予定を含む)

平成21年11月24日現在

都道府県	市町村	実施者	実施期間	接種場所	対象者	対象者数	その他
宮城県	女川村	女川町	12月9、10、11、19、1月13～16日	保健センター	1歳～小学校3年生	約1000人	○3受託医療機関が関わって実施
宮城県	大衡村	大衡村	12月に1回	村営診療所	小学校1～3年生	約80名程度	
山形県	山辺町(別紙)	山辺町、新型インフルエンザ接種医師団(8医療機関)	11月17日～12月24日までの毎週火・木曜日(18時45分～)	保健センター	保育所入所者、小学生		<ul style="list-style-type: none"> ○8受託医療機関の協力を得て、新型インフルエンザ接種医師団を組織 ○ワクチンは山形県と相談し、医師団代表医療機関から必要量を要請し確保 ○対象者へは、学校等を通じて情報を提供し希望者募るとともに、予診票をあらかじめ配布 ○保健センターの保健師が、予診票の記入漏れ等を確認するとともに、重要なポイントをチェック ○8受託医療機関の医師が交代で接種 ○接種費用は医師団の会計として管理
東京都	中央区(別紙)	中央区医師会	11月23日、12月及び1月(予定)	保健所、保健センター	1歳～6歳(就学前)	11月23日約300人、12月及び1月で約1000人程度を予定	<ul style="list-style-type: none"> ○11月23日は、 ・中央区の独自施策として全額助成券と予診票を個別に郵送し、予診票を記載の上、当日持参 ・受託医療機関が10mLバイアルのワクチンを持ち寄って実施 ・安全性マニュアルを作成し事前に指導 ・医師、看護師及び必要物品は医師会で用意 ・小児科医、内科医、看護師の3人を1チームとし、計6チームで実施 ・1時間ごとに安全確認等のためのミーティングをチームごとに行い、問題点を共有し改善 ○今後のワクチンの配布は東京都に中央区が要請中
滋賀県	大津市	大津市、医師会	12月19日～2月3日の23日間(2回目の接種を含む)	大津市民病院、体育館、すこやか相談所	1歳～小学校3年生		<ul style="list-style-type: none"> ○予約制 ○医師会と検討会を組織
徳島県	徳島市	徳島市	12月5、6日、12、13日	保健センター	小学校1～3年生(12月5、6日)、1～6歳(未就学児)(12月12、13日)	約1000人	○幼稚園・保育所及び市教育委員会の協力を得て学校を通じて、接種希望を募る

※ 公表に承諾をいただいた市区町村のみを記載

(別紙)

(21.11.18 山辺町聞き取り)

山形県山辺町における集団的接種の実施について

(集団的接種の考え方)

- 山辺町では、小児科医が1名のみであることから、小児に対する接種を行う場合に当該医療機関に集中してしまうため、集団的な接種の方法をとる必要があるものと判断。

(接種計画)

- 山辺町新型インフルエンザ対策本部長名で各医療機関に集団的接種の協力を要請し、8つの受託医療機関から協力を得て、新型インフルエンザ接種医師団を組織。
- 接種は、11月17日から12月24日までの毎週火曜日・木曜日の18時45分から山辺町保健センターで実施。
- 8つの受託医療機関の医師が交代で接種を実施。
- 当面は、保育所入所者及び小学生を対象として接種を実施。

(広報)

- 対象者へは、学校等を通じて情報を提供し希望者を募るとともに、予診票をあらかじめ配布。
- 学校関係者は、感染状況を毎週保健所に報告していることから、接種の必要性が高いことを認識しているとともに、学級閉鎖が続くとカリキュラムに影響すること、学校は事務的な文書のやりとりを行うのみにとどめることにより、協力。

(ワクチンの確保)

- ワクチンは、集団接種の実施について山形県と相談し、医師団代表医療機関から必要量を山形県に要請し確保。

(11月17日の実施状況)

- 17日は、受託医療機関の医師2名、保健センターの職員6名を含む12名体制を組織し、被接種者58名を約1時間かけて接種。
- 保健センターの保健師が、予診票の記載漏れ等を確認するとともに、重要なポイントをマーカーでチェック。
- 医師が、当該予診票をもとに予診及び接種の意思を確認し、接種を実施。
- 接種後、経過観察時間を30分確保し、看護師及び保健師が待機(副反応はなし)。

(接種費用)

- 接種料金は、1回目3600円、2回目2550円と設定し、被接種者からは、町の費用負担分を差し引いて、1回目1800円、2回目1200円を徴収。(町負担額：1回目1800円、2回目1350円)
- 接種費用は、町の協力のもとに医師団の会計として管理

(別紙)

(21. 11. 24 東京都中央区及び中央区医師会聞き取り)

東京都中央区における集団的接種の実施について

(集団的接種の考え方)

- 受託医療機関において、予約がキャンセルされた場合に 10mLバイアルのワクチンが効率的に使用できないこと、小児科の受託医療機関において、日常の診療に新型コロナウイルス患者の治療、季節性インフルエンザの接種などが重なり、多忙を極め、新型コロナウイルスワクチンの接種について、区民の要望に答えることが困難なこと等から、中央区医師会が集団接種を検討。

(接種計画)

- 接種は、11月23日、12月及び1月(予定)に、保健所及び保健センターにおいて実施。
- 1歳～6歳(就学前)の者を対象
- 安全性マニュアルを作成し、事前に指導を実施

(広報等)

- 中央区の独自施策として、全額助成券及び予診票を個別に送付。

(ワクチンの確保)

- 受託医療機関が、10mLバイアルのワクチンをそれぞれ持ち寄って実施
- 今後のワクチンの配布は東京都に中央区が要請中。

(11月23日の実施状況)

- 医師、看護師等は医師会が確保するとともに、必要な物品等も医師会で用意。
- あらかじめ送付された予診票について、保護者が記載の上、当日持参。
- 小児科医、内科医及び看護師の3人を1チームとし、計6チームで約300人の接種を実施。
- 接種後の経過観察室にも医師を配置。
- 1時間ごとに安全確認等のためのミーティングをチームごとに行い、問題点を共有するとともに、その改善を実施。
- 接種終了後、全スタッフで総括を実施。

(接種費用)

- 全額助成券をあらかじめ配布。

(その他)

- 12月及び1月において、約1,000人程度の接種を予定

事務連絡
平成21年12月16日

各都道府県新型インフルエンザワクチン担当部局 御中

厚生労働省
新型インフルエンザ対策推進本部

新型インフルエンザ (A/H1N1) ワクチン (国内産) の
接種回数の変更等について

日頃より、新型インフルエンザ対策にご協力いただき、誠に有り難うございます。

今般、新型インフルエンザ (A/H1N1) ワクチン (国内産) の接種回数について下記のとおり変更するとともに、当該変更等を踏まえて、当面の接種について下記のとおり進めることといたしますので、各都道府県における対応方よろしくお願いいたします。

記

1. 接種回数の変更について

今般、11月上旬から国立成育医療センター及び大阪市立大学公衆衛生学教室によって実施された、中高生及び妊婦に対する臨床試験の1回目接種後の抗体価に関する結果等についての専門家による評価を踏まえ、新型インフルエンザ (A/H1N1) ワクチンの接種回数について、別紙1のとおり

- ・「中高生に相当する年齢の者」は1回接種とすること
- ・「妊婦」は1回接種の方針 (平成21年11月17日付け厚生労働省新型インフルエンザ対策推進本部事務連絡を参照) を維持すること

といたしましたので、管下市町村、受託医療機関及び住民の方々への周知方よろしくお願いいたします。

2. 標準的接種スケジュールの前倒し検討について

1. のとおり中高生に相当する年齢の者のワクチンの接種回数を1回に変更するとともに、新型インフルエンザの推計患者数 (平成21年12月6日時点で累計約1,400万人と推計) を差し引くことにより修正した「標準的接種スケジュール

(目安)」は別紙2のとおりとなります。

このスケジュール(目安)では、これらの見直しを踏まえ、「高校生に相当する年齢の者」及び「高齢者」の開始時期について、それぞれ半月程度の前倒しが可能となります。しかしながら、1月の接種開始までに時間がないこと等を踏まえ、前倒しを実施するか否かは各都道府県でご判断いただくことといたします。

各都道府県におかれては、地域の接種の進捗状況や予約状況等を踏まえ、可能であれば前倒しの対応をいただくようお願いいたします。その際、12月28日に出荷(卸売販売業者に1月6~7日頃納入見込み)される製剤の大部分は10mlバイアル製剤になることを踏まえ、

- ・中学生や高校生に相当する年齢の方に対する集団的接種の実施について検討いただきたいこと
- ・11月後半から12月半ばにかけて相当量のワクチンが出荷(約1,500万回分)され、地域ごとの違いはあるものの、全国的には概ね接種希望に対応できる量のワクチンが供給される可能性が高く、10mlバイアル製剤の有効活用を図る観点からは、高校生や高齢者など次の優先接種対象者のグループの接種を早期に開始することが望ましいこと

などについても考慮いただきますようお願いいたします。(平成21年12月11日付け厚生労働省新型インフルエンザ対策推進本部事務連絡を参照)

3. 優先接種対象者以外の方へのワクチン接種開始について

平成21年12月15日付けで「新型インフルエンザ(A/H1N1)ワクチン接種の基本方針」を改訂し、今後、健康成人に対しても接種を進めるとともに、健康成人のうち低所得の方に対しても、優先接種対象者と同様に、費用負担軽減措置を講じることといたしましたが、健康成人に対する接種開始時期等の接種の進め方については、輸入ワクチンの状況等を踏まえ、来年1月を目途にご連絡をいたしますので、ご承知おき下さい。(平成21年12月15日付け厚生労働省新型インフルエンザ対策推進本部事務局事務連絡を参照)

以上

新型インフルエンザワクチンの接種回数の見直しについて

平成21年12月16日
厚生労働省

今般、中学生、高校生及び妊婦に対する1回接種後の臨床試験の結果が得られたことから、新型インフルエンザワクチンの接種回数について、専門家の意見も伺いながら検討を行い、以下の方針で対応することとした。

《これまでの確定事項》

- 「健康成人」^(*)及び「65歳以上の者」については、1回接種とする。
- 「妊婦」は1回接種とする。ただし、妊婦を対象とした臨床試験の結果により検証を行う。
- 「基礎疾患を有する者」は1回接種とするが、著しく免疫反応が抑制されている者は2回接種としても差し支えないものとする。
- 「1歳から小学校6年生に相当する年齢までの者」は2回接種とする。なお、中学1年生に相当する者であっても接種時に13歳になっていない者については、2回接種とする。
- 「中高生に相当する年齢の者」は当面2回接種とするが、今後の中高生を対象とした臨床試験の1回目の接種結果等を踏まえ判断する。

*「健康成人」には、「中高生に相当する年齢の者」に該当しない18才及び19才の者を含む。

《今回の見直し方針》

(1)「中高生に相当する年齢の者」は1回接種とする。

今回の中高生を対象とした臨床試験において、1回接種で国際的な評価基準を上回る十分な抗体価の上昇がみられたことなどから、「中高生に相当する年齢の者」については、1回接種とする。

* ただし、中学1年生に相当する者であっても接種時に13歳になっていない者については、2回接種とする(上記《これまでの確定事項》参照)

(2)「妊婦」は1回接種の方針を維持する。

妊婦については、健康成人を対象とした臨床試験の結果などを踏まえ1回接種としていたが、今回の妊婦を対象とした臨床試験において、1回接種で国際的な評価基準を上回る十分な抗体価の上昇がみられたことなどから、1回接種の方針を維持する。

平成21年12月16日現在

【現時点での標準的接種スケジュール(目安)】

※「接種回数」は、成人への接種回数に換算している。
 【換算の前提】1～6歳未満:0.2ml×2回接種、6～13歳未満:0.3ml×2回接種、中学生、高校生に相当する年齢の者(13歳未満を除く):0.5ml×1回接種、それ以外の者:0.5ml×1回接種

■...可能であれば前倒し(今回依頼)

□...可能であれば前倒し(11/6)

○...スケジュール未定部分(輸入ワクチン、国産ワクチン)

出荷数量(予定)	単位(成人換算)	10月		11月		12月			1月		2月		3月	年度内合計	
		前半	後半	前半	後半	上旬	中旬	下旬	前半	後半	前半	後半			
国産(10mL ¹ /7ℓ)	万回分	45	90	173	173	248	166	378						1,273	
国産(1mL ¹ /7ℓ)	万回分	73	44	166	224	324	294	81	659	580	488	349	560	3,842	
国産(0.5mlシリンジ)	万回分			25	55		55			69	69			273	
	万回分	118	134	364	452	572	515	459	659	649	557	349	560	5,388	
供給量(予定)	万回分		118	134	364	452	572	515	459	659	649	557	349	560	5,388
	万回分		118	252	616	1,068	1,640	2,155	2,614	3,273	3,922	4,478	4,827	5,388	

No.	接種対象者	A:対象人数		B:推計患者数 (%)	推計接種対象者数(A-B)	接種回数	
		人数	割合			1回目	2回目
1	インフルエンザ患者の診療に直接従事する医療従事者	100万人	-	-	100万人	1回目	
2	妊婦	100万人	-	-	65万人	1回目	10～15万程度/月(接種時期を確定しない)
3	基礎疾患を有する者(最優先)	600万人	-	-	600万人	1回目	200万人(2回目)
	基礎疾患を有する者(その他)	300万人	15万人	5%	285万人	1回目	
4	幼児(1歳～就学前)	600万人	210万人	35%	390万人	1回目	2回目
	小学校低学年に相当する年齢の者	350万人	230万人	65%	120万人	1回目	2回目
5	1歳未満の小児の保護者及び優先接種対象者のうち、身体上の理由により予防接種できない者の保護者等	200万人	10万人	5%	190万人	1回目	
	小学校高学年に相当する年齢の者	350万人	230万人	65%	120万人	1回目	2回目
7	中学生に相当する年齢の者	350万人	160万人	45%	190万人	1回目	
	高校生に相当する年齢の者	350万人	120万人	35%	230万人	1回目	
9	高齢者(65歳以上)	2100万人	0万人	0%	2,100万人	1回目	
	優先接種対象者以外の者	7250万人	-	-			

※免疫力が著しく低下し、2回接種する方を約200万人と想定

※輸入ワクチン(未定)が接種可能な状態であれば、選択可能とする

○...スケジュール未定部分(輸入ワクチン、国産ワクチン)

※製造計画や出荷数量等については、変動の可能性があります。※1月以降は従来10mlで製造予定としていたワクチンを1mlに切り替える予定です。
 ※輸入ワクチンについては、現在承認申請中であり、今後、具体的なスケジュールを示す予定です。
 ※本スケジュールは各カテゴリーの接種率が100%であることを前提としているため、前倒しとなる可能性があります。